

ふれあいネットワーク

協  
社

よこしばひかり

YOKOSHIBAHIKARI

42  
号

2020.1.1発行



## 地域伝承教室 しめ縄づくり

12月5日、南条小学校5・6年生を対象に、南条地区社会福祉協議会の方々が、しめ縄づくりの技術を伝承しました。

こども達は自分で作ったしめ縄を手に、「このしめ縄を飾って、良い正月を迎えたい」と笑顔で話していました。

社会福祉法人 横芝光町社会福祉協議会

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川11902 TEL 0479-80-3611 FAX0479-80-3651

E-mail info@yokoshibahikarishakyo.jp http://www.yokoshibahikarishakyo.jp/

# ボランティアの活動に感謝!!

台風15号、19号の相次ぐ千葉県への直撃は、大木がなぎ倒され、屋根や瓦が破損するなど、これまでに経験したことのない甚大な被害をもたらすものでした。

社会福祉協議会では、横芝光町災害対策本部より要請を受け、9月14日(土)災害ボランティアセンターを開設し被災者の支援にあたりました。

町内の方をはじめ、県内外より多くの方々、中には、東日本大震災で被災された福島県浪江町の方もいらっしゃり「私にも何かできることがあるかと思って」「私は高所作業ができます」と多くの方々がボランティアに駆けつけてくださり、屋根のブルーシート張りや瓦礫の片付け等にご尽力いただきました。

ボランティア登録者…224名 延べ活動者…783名 ボランティア派遣依頼…379件

## 台風15号・19号及び 大雨の被害に遭われた皆さまに 心よりお見舞い申し上げます。

ボランティア派遣依頼が  
一番多かった  
屋根のブルーシート張り



災害ゴミの片付け



飛ばされた  
屋根の片付け



## 物資、義援金による支援

多くの方や企業の皆様から支援物資や義援金が届けられました。いただいた飲料水や食料品は避難所に避難されていた方に、ブルーシートや資材は屋根の応急処置に使わせていただきました。

皆様のご支援に感謝申し上げます

# 災害ボランティア派遣の流れ



## 募集



連日、早朝よりたくさんのボランティアさんが集まってくれました

## 受付



始めに保険に加入し、活動できる内容の確認

## オリエンテーション



活動時の注意事項等の説明

## マッチング



ボランティア派遣依頼に基づき、活動内容の確認とチーム編成

## 資材調達



活動に必要な資材を揃える

## 現場へ出発



地図を片手に現場へ出発

令和  
元年度

# 福祉のまちづくり 作文・ポスター

## 最優秀作品と優秀作品紹介！

「ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かな福祉のまちづくりを進めるため、福祉教育の一環として町内小・中学生から作文・ポスターを募集したところ、77点の作品が寄せられ、中学校の部・小学校の部で、それぞれ入選作品が決定しました。

### ○中学校の部 最優秀賞

#### 「人それぞれの思いやり」

光中学校1年 角田 正人

僕のひいおばあさんは、目が見えませんでした。去年、九十二歳で亡くなりました。僕のお父さんが子供の頃は、目が見えていたのですが、緑内障という目の病気で、四十年前前には完全に何も見えなくなりました。まだ少し目が見えていた頃は、お父さんを保育園に送って行ったりしていたそうです。

また、お父さんに聞くと、ひいおばあさんは、ほとんど目が見えない状態でも手探りで味噌汁を作ったり、洗濯物を干したり、庭を散歩したりしていたそうです。ですから、僕が生まれた時は完全に目が見えない時で、ひいおばあさんは、僕の顔を見ることがありません。とてもかわいそうだと思います。

ひいおばあさんは、普段は母屋の隣にある部屋にいて、ご飯や風呂に入る時には、庭を一人で歩いてきていました。その時も、両手を前に伸ばして、壁や庭にとめてある車にぶつからないようにしながら、ゆっく

りと歩いていました。時々僕たちが遊びに行った時は、手をつないで母屋の方へ連れてきてあげたり、頼まれたことをやってあげたりしたことがあります。

家の中に入っても、片方の手で壁をさわりながらも片方の手を前に伸ばしてお皿や茶碗の位置を確認してから食べていました。

僕はある時、お父さんに言いました。

「ご飯を持って行ってあげればいいんじゃない。」

僕は、ご飯を持って行ってあげれば、庭を一人で歩いて母屋まで来なくていいので、ひいおばあさんにとって助かるのではないかなと思っただけです。でも、お父さんは、「そんなことしたら庭も歩けなくなるし、感覚が鈍くなつて、頭も使わなくなるから痴呆になっちゃうだろう。」と、言ったのです。僕は、「確かに、目が見えないでさらに痴呆になった方がもっと大変だ。目が見えないでもできる事はあるし、何かをやってあげるだけが親切ということではないんだ。」と、思いました。

僕は、ひいおばあさんの家に遊びに行っている時に、「ご飯を持ってきて。」とか、「母屋まで連れて行って。」と、頼まれたことはありませんでした。多分、ひいおばあさんも「少しでも自分でできる事はやらなければ動けなくなってしまう。家族に、迷惑をかけてしまう。」と、思っていたのかもしれない。

ひいおばあさんは、目が見えなくても頑張り屋だったんだなと感心しました。

僕は、自分の身近に目が見えない家族がいたので、そのような人と接したことがない人と比べると、大変さがわかっていると思います。これからも、ひいおば

あさんを手伝った事を忘れずに、その人にとっての親切とは何かを考え、行動できるようにしたいと思います。

### ○中学校の部 優秀賞

#### 「ふれあひ、支えあひとは」

横芝中学校3年 青木 彩華

「ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かなまちづくり」と言われたら、みなさんは何を思うだろうか。

私は、中学二年の時に、老人ホームで職業体験学習を行った。体験学習を行っている時に老人ホームの設備を見学した。風呂場では、体が動かしにくい人のために座ったまま入ることができる浴槽や、横になったまま入ることができる浴槽があった。施設の壁には、リハビリのためや転ばないようにするために手すりや設置してあった。このように、老人ホームには、高齢者が楽になるような設備がたくさんあり、「支えあひ」の精神に満ちあふれていた。

しかし、老人ホームだけではなく、町が「支えあひ」の精神を持たなければならぬ。例えば、高齢者が歩きやすいように段差を減らしたり、手すりを設置したりすれば良いと思った。

だが、実際にそれを行うには、たくさんの方の時間と費用がかかるし、私たちでは簡単にできないものだろう。そこで、まずは知ることから始めれば良いのではないか。高齢者は、体が不自由になってしまいうことが多いため、町全体で支えあわなければならぬということを知ることが大切だ。また、「ふれあひ」をすることにより、「支えあひ」になると思う。「ふれあひ」という

## 「思いやりの大切さ」

光中学校2年 中野結翔

この頃、僕は電車を利用する事が多くなった。主な目的としては、東京、つまり都会に出かけるためだ。

ある日のこと、僕は、母親と妹と三人で電車に乗った。その日は、とても混雑していて、席があまり空いていなかったが、僕は運が良くちようど席が空いたので、座る事ができた。車内を見回してみると、色々な人がいたが特に「サラリーマンが多いんだな。」

と、改めて思った。そんな事を思いながら電車に揺られ十分くらいたった時だった。背の高い大人にまぎれて、一際目立っている人が乗ってきた。それは、杖をついた少し弱々しい一人のおじいさんだった。そのおじいさんは、右をキョロキョロ、左をキョロキョロと顔を左右に振って何かを探している。僕は、すぐに分かった。

「席を探しているんだな。」

しかし、僕達が乗っている電車は、どこを探しても満席のためおじいさんが座る場所はなかった。どこを探しても席がない事に気づいたおじいさんは、とても困った顔をして、その場にたたずんでしまった。僕は一瞬「席をおじいさんに譲ろう。」

と、思ったが、僕は譲るのをやめてしまった。それは、「譲ろう」という気持ちより、「自分が座れなくなってしまう」という気持ちの方が勝ってしまったからだ。その後、一人の女性が、「席、どうぞ。」と、笑顔でおじいさんに声をかけ、席を譲っていた。その時、僕は

「ハッ」とした。

「思いやりって素敵だな。カッコいいな。」

という純粋な気持ちと、

「あの時なぜ譲れなかったんだろう。」

という悔しく、情けない気もちになった。

このような実体験から、僕がこれからできる事について考えた。僕は、何かの会社に勤めているわけではないので、何か開発したりはできない。しかし、少しの気遣いや思いやりの気持ちを持って接する事はできると思う。僕の祖父や祖母も、だんだんと歳をとってくる。歳をとってくると、最近ニュースにもなっている自動車の免許を返納する事になるだろう。すると、自然と電車やバスといった交通手段を使う事が多くなると思う。そのような時、例えば、電車などの公共機関では、積極的に席を譲ったり、席を見つけてあげたりしたいと思う。また、生活をしている中、お店や歩道、公共施設などでは、重たい荷物を持ってあげたり、階段などでは、手を貸してあげたいと思う。

このように、大きな事でなくてもまずは、小さい事から始めてみたいと思う。小さな事を思いやりの気持ちを持って接する事で、お年寄りなども生活がしやすくなると思う。

一人一人の思いやりの気持ちで、みんなが生活しやすい環境をつくれるともっと社会が良くなると思う。そのために、今自分ができる事を頑張っていきたい。



のは、老人ホームで祭りを行ったり、町主催の福祉体験を行ったりすることだ。「ふれあい」をすれば、高齢者について知ることができるようになる。「支えあい」の第一歩になるだろう。また、「支えあい」や「ふれあい」は、家族の中に高齢者や体の不自由な人がいればできると思う。私の祖母も足腰が悪かった。そのため、歩くのにも一苦労で、大変そうだった。私は、祖母が歩く時に手を支えたり、車のドアを開閉したりした。これらは、誰にでもできるし、会話も増えるため自分から積極的に行ってほしい。それに、一人一人が高齢者や体の不自由な人と関わり少しでも手助けをすれば、「支えあい、ふれあい」になる。始めは、「知る」ことから。次に、「支えあい、ふれあい」を家族の中で行ったり、福祉体験を行ったりする。これらが積み重なっていけば、いずれは町全体で「支えあい、ふれあい」ができるだろう。

私は、初めに『ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かなまちづくり』と言われたら、みなさんは何を思うだろうか。』という質問をした。私は、福祉のまちづくりの作文テーマを見た時に、「ふれあいと支えあいは、何をすれば良いのだろうか」と疑問に思った。しかし、作文を書くために、職業体験学習のことを思い出したり、母に福祉のことを聞いたりしているうちに、自分なりに「ふれあいと支えあい」とは何をすれば良いのかが分かった。そして次は、それを行動に移せるようにしたいと思った。みなさんもまずは、自分なりに「ふれあい、支えあい」について考えてみてほしい。そうすれば、少しでも「ふれあい」や「支えあい」をしたことになると思う。この高齢化社会の中で、町の全人員が幸せに暮らせるために。

○小学校の部 優秀賞

# 「あいさつの言葉と成長」

日吉小学校6年 平山 咲希

「こんにちは」とか、「さようなら」など、あいさつにはいろいろな言葉があります。そのようなあいさつをしたとき、どのような気持ちになりますか。

私が一年生のとき、あまりあいさつが出来なかったので、六年生に、「地域の方々に自分からあいさつしようね。」といわれ続けました。けれど私にはびんときませんでした。

「あいさつをしても返事をもらえないかもしれないし、あまり意味がないのでは？」と思ったからです。ですから、どうしてもすすんであいさつをしにくかったです。

でも、みんなはごく当たり前のようにあいさつして、いえないのは私だけなのかもしれないと思い、私もがんばって「おはようございます。」といってみました。そしたらなぜだかとても気持ちがよくなりました。私は「あいさつをしたらいい気持ちになるんだ。」と思います

○中学校の部 最優秀賞



実川明花音  
(横芝中学校3年)

した。そのときには、今まで思っていたような、返事が来なかったらさびしいなとぜんぜん思いませんでした。

二年生になるころには、「もう二年生になったのだから、すすんでいっしょうけんめいあいさつしよう。」と今までより自分からあいさつするようにになりました。六年生の今では入ってきた一年生に「自分からあいさつするんだよ。」と伝えていきます。

どうしてあいさつすると気持ちがいいのでしょうか。あいさつをしたしゅんかんに、相手と心がつながった気がするからだと思います。いいえ、気がするのではなく、きつと心がつながったのだと思います。それまでのよく知らない人から、知り合いに変えてくれる、あいさつはまほうの言葉。だから、気持ちがいいのだと思います。

この六年間で、私はずいぶん成長したと思います。それは自分ががんばったというよりきつと、あいさつをするようになって、人と人との出会いの中でみがいももらったのだと思います。

あつというまにすぎっていく年。あつというまに過ぎていく時間。あいさつをすることで時間はただの時間

○中学校の部 優秀賞



竹内 恵  
(横芝中学校3年)

ではなく、私の成長の時間となりました。

あいさつは人のためにするのではなく、自分にとつてとても大切なこと。あいさつなんてと思っけていても、自分からあいさつしてみよう。たったひとつの言葉でとてもいい気持ちになる。それがあいさつ。

○小学校の部 最優秀賞



伊橋 彩乃 (白浜小学校5年)



稲田 雅  
(横芝中学校3年)



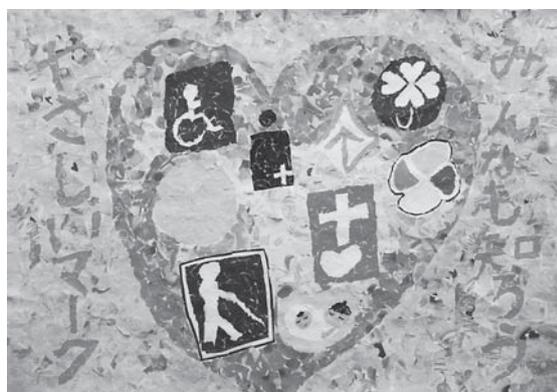
大木華鈴  
(東陽小学校1年)



伊東莉望  
(白浜小学校2年)



江波戸蒼二郎  
(横芝小学校6年)



石橋和奏 (白浜小学校3年)



鈴木龍  
(南条小学校5年)



土屋恵登 (日吉小学校2年)



片岡祐樹  
(横芝小学校4年)



高橋理人 (横芝小学校3年)

福祉のまじまじ  
作文・ポスター  
入選作品の  
展示について

最優秀賞、優秀賞の作品を左記日程で展示します。

場所 横芝光町図書館 1階ロビー 期間 12月14日(土)～12月22日(日)

場所 横芝光町民会館 1階ロビー 期間 2月22日(土)～3月1日(日)

皆さん、ぜひご覧ください。

令和2年2月29日開催予定の『福祉のつどい』にて入選者の表彰を行います。

# こんにちは 生活支援コーディネーターです

在宅生活で「ゴミを集積所まで持って行けない」「買い物、お金の出し入れや支払いに行けない」など困っていることはありませんか？

そんな時はご相談ください。

生活支援コーディネーターは高齢者の困りごとに耳を傾け、解決に向けた取り組みをしています。

## 募集しています

在宅生活を支える  
お手伝いを  
していただける方



高齢者等が  
気軽に集まれる  
場作り



食品や日用品を配達して  
いただける等、  
在宅生活を支援して  
いただけるお店や事業所

## 恒久平和を願い合掌 戦没者追悼式

戦後74年を迎え、社会福祉協議会では町との共催により11月21日、町文化会館で戦没者追悼式を挙行了しました。

式典では遺族・来賓80名が参列し、遺族を代表して石井國夫さん(栗山第4)が家族との思い出を語ると、会場のあちこちで涙を拭う姿が見られました。

会場に「海ゆかば」が流れるなか、一本ずつ白菊を霊前に献花し、在りし日の英霊の姿をしのび、いつまでも合掌するご遺族の姿がありました。



## 介護支援、心の絆づくり!

11月29日、町文化会館集会室で千葉県レクリエーション協会より猿田重昭氏を講師に招き「介護レクリエーションサポーター研修」を開催しました。



健康教室やサロン活動等で使えるレクリエーションの実技や演習に加え、レクリエーションのコツやポイントなどについて学びました。

この研修を終えると、介護レクリエーション・サポーターとして登録ができ、参加された方々は「早速、地域のサロンで実践したい」「サロン活動の幅を広げていきたい」と話されていました。

## 住民たすけあいサービス 協力会員募集!!

日常生活のちょっとした困りごとをお手伝いするサービスです。

最近、ご高齢で買い物に行けず困っているとの相談が多く、買い物を代行していただける協力会員さんが足りていない状況です。

月に1、2回1時間程度でも構いません。  
ご協力をお待ちしています。



### お問い合わせ

横芝光町社会福祉協議会 ☎80-3611

## 紹介します ボランティア連絡協議会

ボランティア連絡協議会は町内のボランティア活動者の交流や情報交換をし、横芝光町のボランティア活動を推進する目的で設置した団体です。

### どんなことをしているの?

- ボランティア派遣事業
- 研修会開催
- 高齢者等の話し相手
- 活動者交流会
- 住民健診時案内
- 広報「つながり」発行
- 施設イベント手伝い
- 家事手伝いなど

### 誰が運営しているの?

ボランティアで運営委員になっていただいている方12名で運営しています。

運営に協力いただける方、ボランティア連絡協議会へ加入したい方ご連絡お待ちしております。